

## 岡山県備前市佐山新池1号窯跡の発掘調査

総合情報学部 生物地球システム学科 亀田 修一、白石 純、横山 聖 (亀田・白石研究室)

Keywords : 窯跡、須恵器

### 1 調査目的

佐山新池1号窯跡は、岡山県南東部の旧邑久郡に相当する瀬戸内市(邑久町・長船町・牛窓町)と備前市に広がる邑久窯跡群に位置している(図1)。

この邑久窯跡群は、6世紀中頃から12世紀頃までの約600年間にわたって操業され、この窯跡群内で最古の木鍋山窯跡をはじめとして約130基の窯跡が確認されている中国・四国地方最大の須恵器窯跡群である。

この調査は『西日本における古代窯業生産の研究—邑久窯跡群を中心に—』(科学研究費補助金・基盤研究A・研究代表:亀田修一)による4カ年計画の学術発掘調査で、本窯跡群を具体的に解明することを目的としている。

### 2 調査概要

佐山新池窯跡群の発掘調査は備前市教育委員会の協力のもと、平成22年8月22日~31日(1次調査)、平成23年3月22日~30日(2次調査)、平成23年8月22日~31日(3次調査)の29日間で合計7本の確認トレンチ(試掘溝)を掘削した。その結果、窯1基(1号窯)とこの窯に伴う灰原(灰・炭・焼土・土器の焼損じ品などが廃棄された場所)が確認された。1号窯は標高53m付近に東西方向に軸を置き、推定規模は長さ約5m、幅約2m、高さ約1m、床面の傾斜角度が約18°である。

出土遺物は、須恵器の甕・壺・盤(皿)・鉢・甌・平瓶・坏・窯壁等が出土した。珍しい資料として「大」とヘラ書きされた須恵器甕が出土している。

### 3 成果と課題

佐山新池窯跡群の第1次から第3次まで調査概要を報告してきた。この3回の発掘調査により、1号窯跡を確認し、焼成室の床面が2枚以上存在することか推測され、灰原も東西10m以上、南北20m以上に広がることか推定された。時期は出土遺物から8世紀中葉から後半頃のものが多く、窯の操業時期もその頃と推測される。ただ、調査区北側の新池付近で陶棺片を採集しており、一部8世紀前半にさかのぼる可能性もあり、北側斜面下に複数の窯が存在することも考えられる。今後の調査課題としたい。

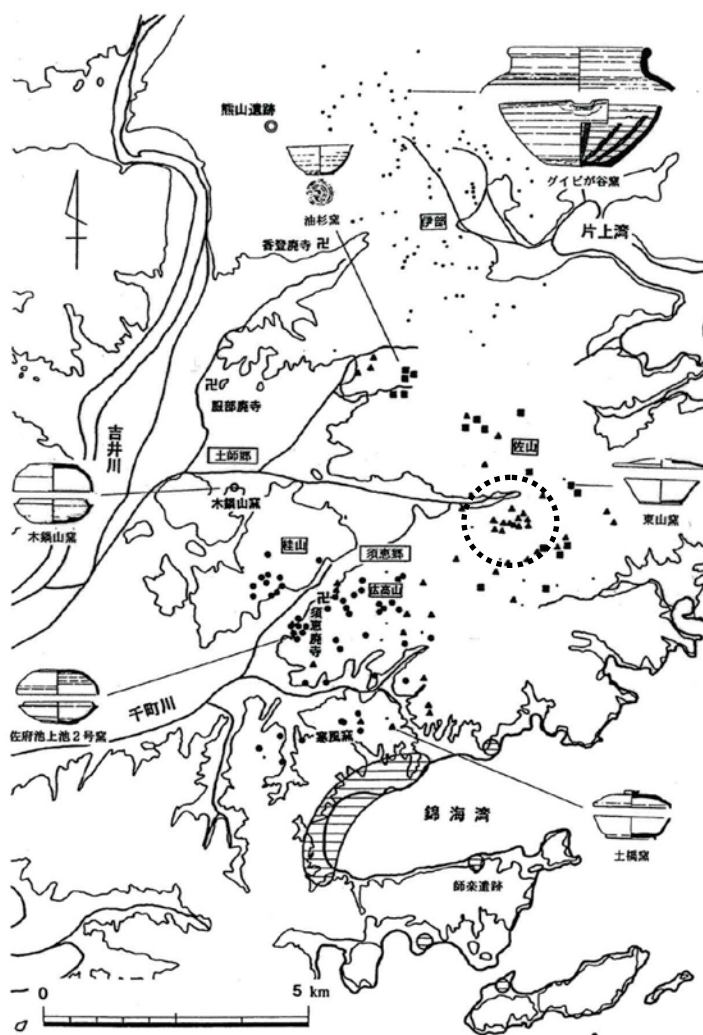


図1 邑久窯跡群・備前焼窯跡群の窯跡分布図

●6世紀後半~7世紀中葉 ▲7世紀後半~8世紀末 ■平安時代  
 ●平安時代末~室町時代 ●時期不明 ○製塩遺跡